

# あいさつからはじめる コミュニケーション



1948(昭和23)年12月10日、国際連合(国連)の総会にて、「世界人権宣言」が採択され、12月10日を「人権デー」として、加盟国に人権思想の啓発を呼びかけています。日本では、毎年12月4日から10日までを「人権週間」と定め、全国的な啓発活動を展開しています。

播磨町では、人権週間に「こころふれあう 町民のつどい」講演会を開催し、また広報12月号を特集号として人権に関するページを設け、皆さまに人権にかかわる情報を提供しています。

今回は、よりよい人間関係づくりの基盤となる「コミュニケーション」について考えてみたいと思います。

▼問い合わせ 生涯学習グループ

☎079(435)0565

## 現代人は「コミュニケーション不足病」?

急増する「いじめ」「虐待」「自殺」など、誰にも相談できない状況が悲惨な結果を招いて、大きな社会問題になっています。この要因の一つとして、「コミュニケーション不足から何事も一人で抱え込んでしまつていった」「心の孤立」が考えられます。最近は家庭内での孤立化も深刻です。

家族といえども、いや家族だからこそ、日頃からコミュニケーションを欠かさず、お互いの悩みを共有していくことが、支え合える家族の前提条件ではないでしょうか。これは、職場や地域でも同様です。

## ロンドンで学ぶ

教育総務グループリーダー 林裕秀

学生のころ、ヨーロッパを旅したことがあります。旅も終盤にさしかかったロンドンでのこと、私は財布を落としてしまったのです。いくらかはホテルに預けていたので日本に帰るお金はあったのですが、見知らぬ土地のこと、本当に困ってしまいました。しかしながら、昼下がりのハイドパークをぶらぶらしていたとき、一人の男性が声をかけてきました。私の困っている様子を見かねて声をかけてくれたのですが、相手はフランス人でした。フランス語のまったく分からない私と日本語のまったく分からないフランス人。

しかし、片言の英語と身振り手振りで

お互いの「思い」が通じ合えたのです。この出会いをきっかけに、私たちはその後、数年間も文通を続けました。

最近、「コミュニケーション能力の大切さが叫ばれています。国語の学習でも小学校中学校を通して「伝え合う力」を身につけるように指導しています。しかし、本当に大切なのは、「相手を思いやる」とか「相手の立場を理解しよう」という「思い」を持つことではないでしょうか。その「思い」が、言葉という手段を通して「コミュニケーション能力を培い、様々な人との出会いを豊かなものにしていく」と思っています。



## 「コミュニケーションは「あいさつ」から

「コミュニケーションは、意思の伝達や情報の伝達だけでなく、「自分が変わる」「相手との関係が変わる」といった変化があることが本質です。朝一番、笑顔の気持ち良いあいさつは、お互いの気持ちを爽やかにしてくれま

## よりよい「コミュニケーション」のあり方とは

「コミュニケーションのあり方には、「攻撃的」「受身的」「アサーティブネス(非攻撃的自己主張)」の三つに大別されると言われています。

「なるほど、そのうち考えもあるのね。私は...と思う」とどうぶつに、相手の思いを認めながら自己主張していくアサーティブネスは、お互いの関係を建設的でよりよいものにしていく手法です。普段でも無意識に実践していることも多いですが、少し意識してみること、よりコミュニケーションが深まることにつながります。

## その痛みを知る前に

今また  
だれかが  
言葉と言つ名の跡を持ち  
だれかの心を  
撃っている  
それは  
痛みを知らないから  
できることなんだ  
だからやめよう  
痛みを知る前に  
人に与えた痛みは  
いつかきつと  
自分にかえってくるから

播磨中学校2年

三木 七海

## あの子の笑顔

さみしいかなしいな  
一人で業間遊んでる  
さみしいかなしいな  
一人で教室残ってる  
さみしいかなしいな  
一人で家に帰ってる  
だから  
その子に声をかけてみる  
そしたらあの子の  
笑顔がたくさん  
つまれるかも

蓮池小学校5年

山口 大貴

## 「こころふれあう 町民のつどい」講演会

12月3日(日)  
午後1時30分～3時30分

場所 中央公民館 大ホール

講師 原田 伸郎氏

演題 『人にやさしいって、いいよね』



## プロフィール

1973年、「赤とんぼの唄」で、あのねのねとして歌手デビュー。同年、日本有線大賞「大衆賞」受賞。その後、持ち前のソフトで温かいキャラクターを活かし、テレビ・ラジオ・インターネットなどで活動の場を広げている。また、テレビ番組で多くの人たちとふれあった豊富な経験を生かして、「人のやさしさ」をキーワードにした講演会でも活躍中。

主催/播磨町、播磨町教育委員会

共催/播磨町人権・同和教育研究協議会

協力/手話サークルはりま、要約筆記ひまわり

## 人権週間の一環として 特設相談所を開設します

人権問題(名誉・信用・差別・私的制裁・いやがらせ・いじめなど)でお悩みの方はお気軽にご相談ください。相談は無料で秘密は厳守します。(予約不要)

▶日時 12月7日(木) 午後1時～3時

▶場所 福祉しあわせセンター

# 児童・生徒・園児の人権作品

人権文化をすすめる町民運動の一環で人権作品を募集をしました。児童・生徒・園児の純粋な心と感性で問題をとりえた作品をご紹介します。(敬称略)

平成18年度全国中学生人権作文  
コンテスト兵庫大会地区予選  
奨励賞受賞作品

六十一年目の夏に生きる

播磨南中学校3年 山谷亮介

今年太平洋戦争が終わって、六十一年目の夏だった。

日本は今、戦争をしていなくて、僕達は、特に生きることを意識しなくても、普通に毎日を生活することができ。こんな平和な日本からは考えられないけど、今のイラクやレバノンのように、戦争していた時代があった。

僕の祖父や祖母がまだ子どもだったころは、おなかがいともすいていた。ご飯すら満足に食べられなくて、お菓子なんかめったに食べられなかった。そして、もう一人の祖父は、ちょうど高校生だった。勉強がしたくても、本を読みたくても、そんな時間はなく、工場に働きに行かされた。軍の命令で、高校は繰り上げ卒業をさせられて、一年早く、大学生になった。

そして、文系に進んだ同級生の多くは学徒出陣し、そのまま戦死した人もたくさんいたようだ。

生き延びるために進んだわけではなかったが、理系に進んだ祖父は学徒出陣はしなかったが、結局、戦争が終わるまでは、満足な勉強はできなかった。

祖父は高校を一年早く繰り上げ卒業させられたことをとても残念がっていた。高校生時代には、ほとんど勉強ができなかったのだから、当然だろうと思った。

戦後になって出版された祖父の同級生の書いた文集を読むと、同級生たちもみんなもっと学びたかったと書いている。高校で学ぶべき一年が抜けてしまったことは、なにか大切な忘れ物をしてるような気がいつもしているところだ。

今の僕達は勉強したいと願えば、何でも手に入る。本もノートも文房具も参考書も、調べたいことは図書館や参考書やパソコンで調べられるし、先生に質問する事だってできる。いつでもどこでも、やる気にさえなればなんでもできる。

傷つけてきた。

それがわかってはいるのに、まだ世界の各地で戦争は続いている。

自分の利益のために考え方が違うからといって、力で押さえつけることになんの意味があるのだろうか。そんなことだから、戦争は終わらない。人間として生まれながら、幸せになれずに死んでいく人がいる。

僕たちは人間なんだ。  
みんな心を持っていてる人だ。  
みんな生きて幸せになるために生まれてきたんだ。  
それなのに大人になったら、人の気



▲「おともだちと そとで  
いっばい あそんだよ」  
蓮池幼稚園3歳児 菅大悟

持ちを考えられなくなるのだろうか？  
今の僕一人の力では、戦争をやめさせることはできないが、過去を知り、未来につなげるためにも、僕はいろんな事を

太平洋戦争中の学生達と違って、僕はやりたいたいことを自分で選び、学ぶことができる。今の学校は軍事教練や、畑を作ったりするところではない。工場で働かなくてもよい。勉強でもスポーツでも好きなことに打ち込める。それは、僕達が日々感謝の言葉を口にすることはできないが、とても恵まれたことなのだと思ふ。

しかし今、同じ時代を生きていても、外国では戦争がおこなわれ、たくさんの人々が命を落としたり、危険にさらされている。

僕よりまだ幼いのに、銃を持たされて戦っている少年、爆撃で大怪我をした子供、泣いて逃げている老人の姿が、テレビの映像となって、僕の家に届けられる。

僕の命の重さと、戦争の地にいる人々の命の重さは決して変わらないと思う。それなのに、この立場の違いはどうなんだろう。

今この地に僕がいられることを、感謝しようと思ふ。  
祖父達の世代の学生がやりたかった勉強をできる時間を与えられている今の自分は、幸せなんだと思ふ。

外国で今戦禍に巻き込まれている人達のことを思えば、僕がいやだなあ、しんどいなあと思ふことはほんの小さなことだ。

人間は何度も何度も戦争を繰り返して、そのたびにたくさんの人を殺し、

な事を知りたいと思ふ。

勉強したくてもできなかった人たちに恥ずかしくないように、僕は生きていかなければならないと思っている。



▲「おともだちと すなばでおやま  
をつくって あそんだよ」  
播磨幼稚園4歳児 吉田誠稀

## おとうさんとわたしのはなし

播磨北小学校2年

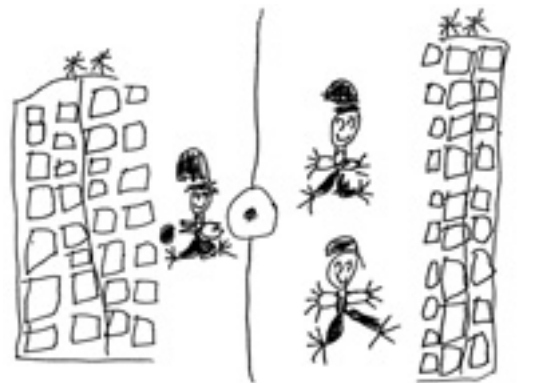
福島桃香

ある日、わたしは、なっていました。りゆうはなくて、なんとなくいららしてしまいました。そのうちおとうさんがかえってきました。そして、おとうさんをたべているあいだも、わたしは、一人で

## 言葉

播磨中学校1年 清原弘貴

君と冗談言いながら帰る道  
急に君がおこってしまう  
え、冗談なのに…  
君をおこらせようなんて思っていない  
楽しく話して帰りたいだけなのに  
もうすぐ君とのわかれ道  
それまでにちゃんとあやまろう  
君をおこらす気持ちになかったことを



▲「お友だちとサッカー、とっても楽しいよ!!」  
播磨西幼稚園5歳児 中野智也

いららしていました。

そしたら、おとうさんが、きゆうに大きなこえで、おこりました。

わたしは、なぜおこったのかわかりませんでした。おとうさんは、ごはんをたべるのをやめて、わたしにおはなしをしようとして、なんでもわたしをよんだけど、わたしはろうかにならなままうごきませんでした。

10回くらいよばれて、なきながらいくと、おとうさんがおはなしをしました。

おとうさんは、なきながら「ももちゃんがいらいらして、みんなをこまらせたり、ものにあたったりしているのを見るのがいやだ。ももちゃんの中に、人をこまらせたり、いやなことをしたり、はなしをきかないわるいあくまと、本とうは、やさしいかぞく思いの天しのももちゃんがいるのを、おとうさんは、しっている。だけど、いまは、あくまがかっているよ。だから、あくまがでてきたら、きをつけてやっつけてね。パパは、ももちゃんのこと、大じに思っているからがんばってね。」と、わたしにいつてくれました。

それをきいて、わたしはなきながらおとうさんにあやまりました。こんどから人をきずつけたり、いやな思いをさせたり、こまらせたりしないように、きをつけたいと思いました。

## あいつ

播磨西小学校6年 松岡拓夢

あいつはいつも腹がたつ  
ひとに迷惑かけても平気やし  
こつちが話しかけてもいつも無視しよる  
あつがましいし、自分勝手なやつや  
友達やめようと何度も思った  
でも小さい時からの付き合いやから  
しょうがない  
つい面倒みてしまう  
なのに「ありがとう」も言ひよらへん!  
それがあいつ、最近少し変わってきた  
ちょっと明るくなった  
他の友達もできた  
少しはがしそうに話しかけてくるようになった  
小さい声で「ありがとう」と言うようにもなった  
なんや、はずがしかつただけが  
「ありがとう」と言ってくれてありがとう